

◆【海員組合・担当支部へようこそ】 名古屋支部の紹介

名古屋支部は、主に愛知県と三重県の現場組合員を中心に、国内部門 17 社、水産部門 6 社を担当しています。支部の近くには「南極観測船ふじ」「名古屋港水族館」「名古屋港海洋博物館」などの観光施設、国際港湾として港の開発・運営を手掛ける「名古屋港管理組合」などがあり、地下鉄名港線の名古屋港駅から徒歩 5 分の場所です

愛知県は名古屋港のほかにも、衣浦港や三河港などの重要港湾もある日本有数の国際貿易拠点です。隣接する三重県は、四日市コンビナートなどがエネルギー面を支える一方で、真珠養殖の盛んな鳥羽市や、日本有数のリニア式海岸を有する志摩市があり、海産物も豊富で、旅客船による海上観光も発達しています

➤ 名古屋港

名古屋港は、自動車関連を中心とした機械類の輸出が盛んで、ガス・原油・鉄鉱石の輸入が多く、外貨コンテナ取扱量では国内一位という巨大港湾です。

潮見ふ頭では、名古屋～仙台～苫小牧の旅客・貨物の輸送を支える太平洋フェリーが就航しており、今後検討されている金城ふ頭駅近郊へのフェリーターミナル移設がモーダルシフトと東海地方の発展につながることが期待されています。金城ふ頭には 16 隻のタグボートが基地に定係しており、港湾における安全な入出港などを支えています。

名古屋港ガーデンふ頭には、全長 100 メートルのオレンジ色の船体が存在感を放つ「南極観測船 ふじ」が展示されています。1965 年から 18 年もの間、南極観測に従事した砕氷艦であり、操舵室などの船内公開や大型スクリーンによる疑似航行体験ができます。

隣には名古屋港の安全な出入港を適切にサポートしているナゴヤシップサービスが係留しており、観光はもちろん、働く港を体感することもできます。

ガーデンふ頭の突端にある「名古屋港ポートビル」には港を一望できる展望室があり、3・4 階の「名古屋港海洋博物館」では操船シミュレータや操舵機の実物を用いて再現した操舵スペースが常設されており、港・船・海はもちろん、交易などの歴史も学べる施設となっています。

日本最大級の敷地面積を誇る「名古屋港水族館」は、子どもたちの人気を集めています。また、ウミガメの施設内繁殖にも成功し、命の大切さをつなげる活動も行っています。

名物の手羽先や味噌カツ、ひつまぶしは「名古屋飯」と呼ばれ、全国から足を運ぶ観光客などに親しまれています。

「海員だより」